



稲生神社



都留美島神社



二俣



築留

# 大和川の風景

三〇〇年前につけかえられた大和川の風景を求めて…

二〇一一年九月二〇日(火)  
〜十二月二一日(日)

柏原市立歴史資料館

月曜休館、無料

開館時間 九時三〇分〜一六時三〇分

大阪府柏原市高井田一五九八一

史跡高井田横穴特別公開

2011年10月15日(土) 10時~15時

申し込み不要

## つけかえまでの大和川

つけかえまでの大和川は、<sup>やまとがわ</sup>久宝寺川（<sup>きゅうほうじがわ</sup>長瀬川）、<sup>なかせがわ</sup>玉櫛川（<sup>たまきしがわ</sup>玉串川）、<sup>ひらのがわ</sup>平野川など何本かの川に分かれて北または北西に流れ、大阪城の北で、もとの<sup>よどがわ</sup>淀川（<sup>おおかわ</sup>大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな<sup>おおさかへいや</sup>大阪平野を流れる大和川は、大雨で水がふえるとうまく流れないため、なんども<sup>こうずい</sup>洪水をおこしていました。そこで、洪水に苦しむ人たちを中心に、大和川のつけかえをもとめる運動がはじまりました。その運動の中心となった人物が、<sup>じんぶつ</sup>今米村（<sup>いまこめむら</sup>今の東大阪市）の<sup>なかじんべえ</sup>中甚兵衛です。<sup>かしわらしりつ</sup>柏原市立<sup>れきししりょうかん</sup>歴史資料館には、中甚兵衛の残したものをいろいろならべています。

しかし、みんながつけかえを<sup>のぞ</sup>望んでいたのではありませんでした。つけかえに<sup>はんたい</sup>反対する人たちもたくさんいたのです。このように反対する人たちもいたため、つけかえはなんども<sup>けいかく</sup>計画されながらそのたびに<sup>ちゅうし</sup>中止されていました。そして、<sup>げんろく</sup>元禄16年（1703）10月に、とうとうつけかえることに決まりました。

## つけかえ工事

つけかえ工事は<sup>ほうえいがんねん</sup>宝永元年（1704）の2月にはじまり、10月には新しい大和川が<sup>かんせい</sup>完成しました。わずか8か月で、あの大きな大和川がつくられたのです。そのように早く工事が終わった理由のひとつは、川の底をできるだけ<sup>ほ</sup>掘らずにすませるなど、むだのない計画をたてたことにあると考えられます。ふたつめは、<sup>ぼくふ</sup>幕府と<sup>だいまう</sup>大名がぶんとんして工事をおこなったために、きょうそうして早く終わらせようとしたことにあるようです。工事が早く終わると、<sup>ひよう</sup>費用も安くすんだのです。毎日1万人ほどの人がはたらいて、およそ7万両（今のお金で140億円ほど）の費用がかかったようです。

大和川がつけかえられた場所を<sup>つきどめ</sup>築留といいます。<sup>ていぼう</sup>堤防を<sup>きず</sup>築いて川を<sup>と</sup>留めたので<sup>つきどめ</sup>築留とよばれています。今の<sup>かしわらしやくしょ</sup>柏原市役所の前にあたり、小さな公園には<sup>どうぞう</sup>中甚兵衛の<sup>きねんひ</sup>銅像や記念碑などがたっています。

また、新しい大和川はできるだけ人々がくらす村を通らないようにしたようですが、それでも小さな村がつけかえ工事によってつぶれているようです。大和川がつけかえられた<sup>ちてん</sup>地点にも、<sup>ふなはしむら</sup>船橋村<sup>しんけ</sup>新家という24軒の家が建ちならぶ村があったことがわかっています。

## つけかえ後の大和川

もとの大和川も、今の大和川とおなじくらい大きな川でした。そして、つけかえ<sup>ご</sup>後は、小さな川だけを残し、田や畑として生まれ変わりました。これを<sup>しんでん</sup>新田といいます。新田では<sup>わた</sup>綿がたくさんつくられました。その綿からつくられた「<sup>かわちもめん</sup>河内木綿」はじょうぶであると人気がありました。

ところが、新しい大和川の近くでは<sup>たはた</sup>田畑を失った人たちがたくさんいました。<sup>こうずい</sup>洪水がおこりやすくなったところもありました。川の北と南にわかれてしまった村もあります。このように、いろいろとこまったことがおこりました。つけかえは、決していいことばかりではなかったのです。

その後、もとの大和川は広い土地があつて家もほとんどなかったため、大きな工場や<sup>じゅうたくち</sup>住宅地などに<sup>かいはつ</sup>開発されたり、学校やグラウンドなどの<sup>こうきょうしせつ</sup>公共施設をつくるために使われることが多くなりました。そして、今ももとの大和川の<sup>ふうけい</sup>風景を残しているところもあります。

## もとの大和川の風景

やま と がわ

大和川がつけかえられて300年あまり。もとの大和川はすっかり忘れられてしまったようです。

ところが、今ももとの大和川を感じることができる場所が少なくありません。もとの大和川の堤防<sup>ていぼう</sup>は、神社や墓地として利用されていたところが多く、今もむかしの堤防の上に残っているところがあります。そして、もとの大和川は、まわりの土地よりも高いところを流れる天井川<sup>てんじょうがわ</sup>だったため、今も川が流れていたところは、まわりよりも高くなっています。また、地図<sup>ちず</sup>をみると、もとの大和川の流れがよくわかります。そして、地図を手に歩いてみると、もとの大和川を感じることができるところがたくさんあります。あなたももとの大和川を感じるために歩いてみませんか？



ふるまち ぼち  
古町墓地（柏原市古町）

きゅう さがん ていぼうじょう  
旧大和川左岸の堤防上にある。



いままち ぼち  
今町墓地（柏原市今町）

旧大和川左岸。2 m以上の高さがある。



いな おじんじゃ  
稲生神社（八尾市天王寺屋）

きゅうほうじがわ さがん ていぼう  
高く残る久宝寺川左岸堤防。



きつなやま  
狐山（八尾市高町）

や お こうこうない  
八尾高校内に残る久宝寺川左岸堤防。



つ る みしまじんじゃ  
都留美島神社（八尾市都塚）

たまくしがわ さがん ていぼう  
玉櫛川左岸堤防の高まり。



みの の あがたぬしじんじゃ  
御野県主神社（八尾市上之島町南）

たまくしがわ う がん ていぼう  
玉櫛川右岸堤防がよく残る。



せつかりょうこくすいみくず  
**攝河両国水脈図** (柏元家文書)

つけかえ前の絵図に、新大和川の位置を描きこんだもの。旧大和川は「大和川一名恵我川」、久  
 ほうじがわ りうげがわ きうほうじがわともいう、こめいえ ががわともいう たまくしがわ たま つばい がわ  
 宝寺川は「竜華川 久寶寺川共云古名恵我川共云」、玉櫛川は「玉ノ椿井川」など書きこまれて  
 いる。つくられた年代はわからないが、つけかえからかなり後ののちにつくられたものであろう。